

# 宮城民医労 ニュース

発行 宮城民医労連絡会  
TEL: 022-251-1111 FAX: 022-251-1112

2015.9.8 No.404

# 戦争立法阻止!

# 許すな安倍政権暴走!

## 日本医労連 看護要求実現交流集会

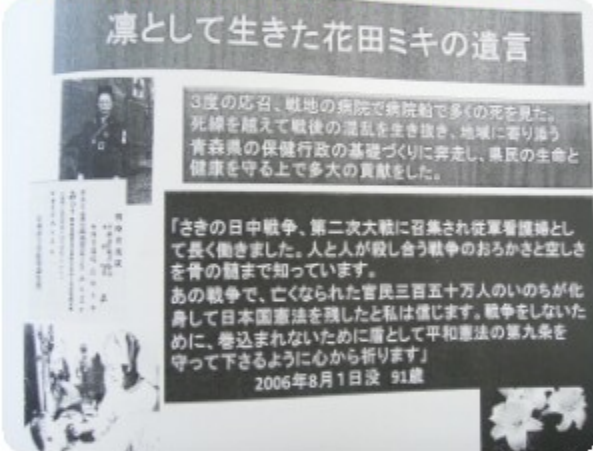
9月2〜3日に越後湯沢で「日本医労連看護要求実現交流集会」が行われ、全国から220名集まりました。

今回は、坂から2年目の2名と、泉からベテラン3名が参加しました。集会の初めに、戦争法案反対の意思を示すために、会場で「戦争NO!」のプラカードを掲げて集合写真を撮りました(下)。



次に、川島みどり先生(日本赤十字看護大学客員教授)から「いのちと暮らしと平和を守る専門職として看護だから」と題して講演をいただきました。先生はまず最初に、戦時の従軍看護婦について紹介され、本来日赤は敵味方なく看護をするのだが戦中は見方でさえ捕虜にしないために殺してきてあ痛恨の思いを話されました。また、東日本大震災の被災地支援の思いを語り、「修復に向かう過程で、ありふれた暮

らしの価値がなくて尊かっただらうと認識した」ことが話され、平和であることが看護の実践は実現する、と話されました。また先生は、看護は自然治癒力を高めるケアであり、医療の中の看護の優位性がそこにあること、医師の助手がメインの仕事ではないと話されました。特定行為についてもふれられ、「医師の絶対的医行為の以上偏った拡大は、有用資源(看護師のこと)の無駄づかい。看護が看護に専念して得るアウトカムを過小評価すべきではない」と訴えられま



凍として生きた花田ミキの遺言  
3度の応召、戦地の病院で戦死した多くの花を見た。死線を越えて戦後の遺孤を生き残し、地域(宮城県)を救済の保健行政の基礎づくりに奔走し、国民の生命と健康を守る上で多大の貢献をした。  
「さきの日中戦争、第二次大戦に召集され従軍看護婦として長く働きました。人と人が殺し合う戦争のおろかさ空しさを骨の髄まで知っています。あの戦争で、亡くなられた国民三百五十万人のいのちが化身为して日本国憲法を築いた私は信じます。戦争をしないために、奪取されないために憲法として平和憲法の第九条を守って下さるよう心から祈ります」  
2006年8月1日 91歳



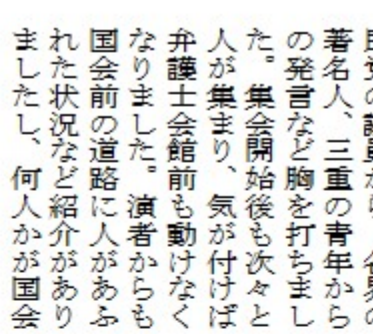
最後に、3度戦争に応募した花田ミキさんの遺言(左上)を紹介され、「戦争しないために、巻き込まれないために、盾として平和憲法の第九条を守ってくださるよう心から祈ります」と講演を終りました。

基調報告では、「戦場の血で白衣を汚さない」と訴えがなされ、いのちを守る職である医療・介護労働者が「戦争する国」づくりを許さない運動に立ち上がり、訴えがありました。また、社会保障の大幅削減を阻止しようと訴えがあり、地域キャラバンや他団体、自治体、地元議員への働きかけの強化が提起されました。「夜勤改善・大幅増員署名」については、これまでの歴史をみても多くの署名を集めた結果として政府を動かしてきた事実をつかみ、大きく達成しようとして100万筆の目標が提起されました。

そのあとで、特別報告が行われ、退勤時間調査の取り組みや、署名の目標達成の経験などが報告されました。

翌日は、各地の活動経験交流や新人の分科会が行われました。平和の課題、社会保障改善の課題など多くの問題がありますが、夜勤改

善・大幅増員署名の取り組みを軸に宮城でも頑張るつもりです。



た。民主党、共産党、社民党の議員から、各界の著名人、三重の青年からの発言など胸を打ちました。集会開始後も次々と人が集まり、気が付けば弁護士会館前も動けなくなり、演者からも国会前の道路に人があふれた状況など紹介がありましたし、何人が国会

で行こうと思いましたが、8月30日に全国に呼び

8.30国会参院一斉大集会

戦争法の憲法と社会保障を争ふ  
日本医労連看護要求実現交流集会

前まで行き状況を見てきて、「ものすごい人数が集まっていた、動けない状態だった」と話していただきました。主催者発表では10万人集まったとのこと。これからも戦争法案廃案に向けてがんばりましょう!



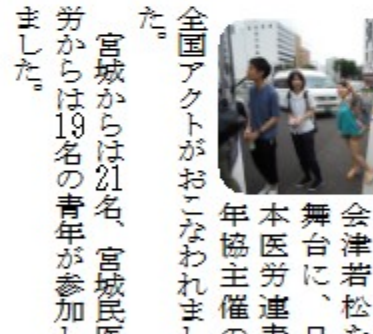
渡辺先生は、まずは安倍内閣の大國政治の三本柱として、①戦争する国づくり、②構造改革(国民皆保険体制解体、派遣法改善、原発再稼働、TPPなど)、③国民意識の修正(歴史の修正・改定)が示され、それを裏で執拗に要求するアメリカと財界がいることを話されました。

次に、戦争法案の危険

中野日本医労連委員長は「後方支援」や「存立危機事態」などのワードがどのように危険な意味をもつのか、実態はアメリカの戦争を強力に支援する内容であることを話していただきました。

渡辺先生からは、沖縄辺野古新基地建設と戦争法案を一体的にたたかうことが強調されました。

次は、立教大学コミュニケーション福祉学部の芝田英昭氏から「社会保障改革をめぐる対抗軸と運動」として講演がありました。芝田氏は、憲法25条について、憲法を議論した衆議院の審議過程で野党からの修正提案で生まれた経過を説明され、GH



8月21〜23日にかけて、会津若松を舞台に、日本医労連青年協議主催の全国アクトがおこなわれました。

宮城からは21名、宮城民医労からは19名の青年が参加しました。

アクト出発!

戦争法の憲法と社会保障を争ふ

Q案に明記されておらず、日本国民が作った条項であることを話されました。それに対して、安倍政権がすすめる社会保障体制の解体について、「社会保障プログラム法」「医療・介護総合法」などの改悪法の中身について説明しました。社会保障を支える税制についても言及され、そもそも消費税収は社会保障財源にはもったもふさわしくないとして、大企業の内部留保など高所得者、巨大企業から適正に徴税することが必要と話されました。戦争政策を支えるには、社会保障破壊が回ります。戦争法に反対するとともに社会保障充実を求めて引きつづきたたかきましょう!

**第52回宮城民医労定期大会**  
日時 9月13日(日) 10:00~  
場所 仙台シルバーセンター7F 第1研修室

**宮城民医労60周年レセプション**  
日時 9月13日(日)17:00受付開始  
場所 仙台ガーデンパレス